

事例 No.	42 (再掲)	人口規模	80万人以上	地域ブロック	東海	事業タイプ	体験	事業主体	任意団体
事業名	地域における通学合宿推進事業								
実施地方公共団体名	静岡県								
特徴・ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の宿泊可能な施設(公民館、集会所、青少年施設、寺など)で異年齢集団による共同生活を行いながら通学をする。 ・合宿日数は短くて2泊3日、長いもので6泊7日。 ・地域の大人がボランティアで参画する。 ・平成18年度は県内108箇所の地域で実施する。 								
事業のねらいと内容	<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが異年齢集団での共同生活の中で生活体験する機会を設定することで、お互いの立場を理解し、協力し合う心を育む。 ・事業を通じて大人たちのボランティア参加を促し、新たな地域コミュニティーを創出し、地域での子育て支援体制の整備を促進する。 ・「地域の子どもは地域ではくむ」機運を醸成する。 <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、食事の準備や掃除といった生活体験をし、集団生活への適応力や我慢する力などを身に付ける。 ・地域の大人の参画により、地域の子どもたちと大人の親交を深めるとともに地域のネットワークづくりを行う。 								
導入・実施の背景・経緯 (事業の必要性)	平成17年度に設置した「創知協働 人づくり推進県民会議」少子化部会の提言を受けて実施。＜提言＞「ふれあいと交流により自分や他者を尊重し、自信と責任をもった子どもの育成」「学校を核とした新たな地域コミュニティを構築し、子どもの協調性や規範性を育成する異年齢集団による『通学合宿』などの実施」				導入・実施に際して苦労した点				
					<ul style="list-style-type: none"> ・中心となるコーディネーターの存在 ・宿泊可能な施設の確保 ・ボランティアの募集 ・経費削減の工夫 など 				
事業の効果	アンケートより 子ども:「自分のことは自分でできるようになった」「異なる学年の友だちが増えた」「地域の人と挨拶するようになった」 主催者:「地域の子どもに声をかけたり交流をもったりするようになった」「地域の大人同士が話をするようになった」 保護者:「子育てを見直す機会になった」				実施にあたってのネックをどのように解決したか				
					<p>中心となるコーディネーターの存在 地域コーディネーター養成講座」「地域教育推進協議会交流会の開催による指導者の育成。</p> <p>実施にあたっての地域の様々な課題(人、施設、経費等)「地域における通学合宿コーディネーター交流会」の実施による課題解決。</p> <p>実施経費の節減 様々な地域の実践をもとにして、事務局(県)が相談に応じる。</p> <p>地域の団体(大人)の連携 合宿のねらいの一つである「地域教育力の向上」について繰り返し説明をして理解を求める。</p> <p>施設の確保 県立高等学校(生活館・同窓会館)等、県の施設への協力依頼</p>				
事業のアピールをどのように行なったか	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体(PTA、自治会、子ども会、青少年団体等)の研修会に出向いて説明 ・県民だより、教育広報での広報 ・県広報 TV 番組「チャチャチャしずおか」での広報 ・広報用DVDの作成(各市町教育委員会等への配布、県 HP でのインターネット配信) ・関係資料(リーフレット・冊子、アンケート結果等)の地域オピニオンリーダーへの送付 								
概算事業費 (千円/年度) 平成18年度予算	20,000千円 ＜内訳＞一般会計:12,500千円 その他:7,500千円(具体的名称:静岡県遊技業共同組合からの寄付金)				問い合わせ先		所属部署:静岡県教育委員会 社会教育課 TEL:054-221-3162 FAX:054-221-3362		